



【解説】弥生時代後期の須和田遺跡を整備し公園としたもの。桜の名所で、バラ園あり。

市景

瓦版
～第22号～



第18回市川市景観賞受賞者決定!

市川市景観賞は、良好な景観づくりに貢献する活動を行っている個人や団体を表彰する制度です。今年度は2件2組の受賞が決定し、令和7年2月4日に授賞式が開催されました。

【市川市景観賞の区分】

- 啓** : 啓発イベント部門
→地域のイベントや景観に関する勉強会などの実施
- 建** : 建築・まちなみ部門
→良好な景観を形成する建造物の保全・管理・建築や設計
- 緑** : 緑化部門
→良好な景観を形成する樹木の保全・管理
→概ね5年以上継続して行っている地域の植栽活動、自然景観の保全活動
- 清** : 清掃部門
→概ね5年以上継続して行っている地域の清掃活動
- 他** : その他
→上記以外で、これらに準ずると認められる活動



左から 本間和義副市長、関東山 徳蔵寺の赤塚祐道氏、行徳郷土文化懇話会の峰崎進氏、板橋幹男氏、北田美奈子氏、景観審議会 木下勇会長



詳細は内面へ!



景観審議会 木下勇会長のコメント

20世紀を代表する日本画家、東山魁夷氏の「古い家のない町は、思い出のない人間と同じだ」という言葉にあるとおり、歴史情緒や伝統文化を守りながら新しい世代へつなげていくことは非常に価値のあること。今回受賞した2組は、まさにこの重要な役割を担っている。



第18回景観賞受賞者にインタビュー♪

受賞者
その1

とくぞうじ
関東山 徳蔵寺
【表彰部門】建築・まちなみ部門

建



▲左が経蔵、右が鐘楼



▲左奥が不動堂



▲手前の門が山門



▲中央に構えるのが本堂

※場所：関ヶ島8-10

※拝観時間：9時～16時

※本堂・不動堂の開扉は毎月28日のみです。



▼受賞の概要

昭和56年に現本堂が落慶して以降、継続的に伽藍(がらん)整備を実施している。

旧本堂に施されていた彫刻を移設する、鐘楼(しょうろう)と経蔵(きょうぞう)を一对の配置とし、格式が高いとされる袴腰(はかまごし)付きのものとする等の工夫により、近隣住民などが歴史や文化を感じられる空間となっている。

参拝者だけではなく、仏画教室や護摩などの参加者も多く訪れており、今後も地域に親しまれる貴重な地域資源としての役割を担うことが期待される。

※経蔵とは…文献など書籍を収蔵する蔵。

※袴腰とは…鐘楼等の下層の末広がりになった部分。

昔ながらの木造建築のお寺です。本堂・山門には、旧本堂に施されていた後藤神輿の彫刻もあり、かつての職人の技を見ることができます。

Q.景観賞を受賞した感想を教えてください

景観賞に推薦したいと言われた時は驚くばかりでしたが、今は嬉しく思います。特に今年は建立450年にあたる年で、そのような節目の年に、記念となる景観賞を受賞することができて良かったです。



Q.こだわったポイントや見てほしいところを教えてください

寺全体のバランスです。京都の街並みを見て、「こうしたいな」と思ったアイディアの積み重ねを活かしています。京都の路地には小さなお寺がたくさんあって、徳蔵寺と近い規模のお寺は大変参考になります。この度建立した経蔵も、それらを参考にしながら、山門の作りなどと比較し、全体のバランスを見てデザインを決めました。

Q.建立に際して苦労したことを教えてください

まずお檀家さんのご協力ですね。景気や社会情勢が悪い中、ご理解とご協力があったからこそと思っています。また、職人さんとの打ち合わせも大変でした。

Q.今後の取り組みについて教えてください

ずっと先のことになるとは思いますが講堂を建てたいと夢見ております。皆さんが集い、仏教を学ぶ場ですね。また、あちこちと修繕もあるので大変です。

▼受賞者の徳蔵寺住職・赤塚氏



行徳郷土文化懇話会

【表彰部門】啓発部門

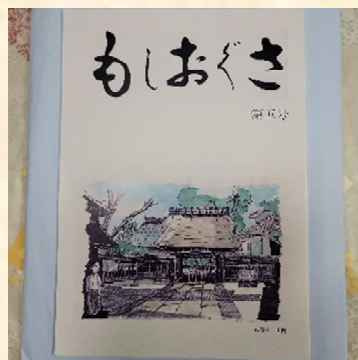
啓



▲当時の道具を使った海苔づくり体験▲



▲行文懇講座



▲約30年ぶりに復刊した「もしおぐさ」

Q.景観賞を受賞した感想を教えてください

行徳の古いものや文化を紹介したり、三十三か所観音札所巡りや学校での啓発活動などのこれまでの活動が認められたと感じました。

Q.三十三か所観音札所巡りとは？

江戸時代に行徳三十三所観音霊場として行徳のお寺が巡礼されていたものを昭和59年に復活させました。観音霊場にお札を納めて巡ることから、札所巡りと言います。

市民活動の模範になる事例です！



◀受賞者代表

Q.活動の中で苦労したことを教えてください

行徳で活動する場所は少ないので、場所取りくらい。楽しく続けているため、苦労したという実感はありません。

Q.活動を継続できる秘訣を教えてください

新市街住民と旧市街住民で交流会を開くと、昔のことや歴史を質問されて、教えると喜ばれる。交流することが楽しい。

行徳の良さを伝える使命感と楽しく活動していることが活動を続ける秘訣だと思います。

Q.今後の取り組みについて教えてください

まだまだ昔のことは分かっていないこともありませんが、多くの人に行徳の歴史を知ってもらうため、一層活動を続けていきたいです。イベントはウェブサイトとfacebookに掲載しますので、チェックしてみてください。

webサイトはこちら▶
※facebookは
「行徳郷土文化懇話会」
で検索！



写真左から

・峰崎会長、板橋氏、北田氏



▼受賞の概要

1979年（昭和54年）に設立。歴史的景観に関する意識向上や文化の継承等を目的として、札所巡りや塩・海苔づくり体験会などのイベント、行徳の文化や歴史を深く学ぶことができる講座の開催、行徳郷土文化を伝える「もしおぐさ」の復刊などを行っている。

これらのイベントを通じて、幅広い世代の行徳地域特有の歴史的景観に対する関心を持つことが期待される。



会誌「もしおぐさ」には、会の活動レポートを中心に、会員が調べた行徳の歴史などを掲載し、将来的には図書館への寄贈を目標に毎年発行する予定。



空間を楽しむ施設がオープン

NEWスポットの巻

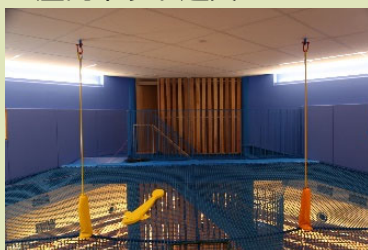
市川市の2つの基本目標である「真の豊かさを感じるまち」と「彩り豊かな文化と芸術を育むまち」を併せもつ2つの施設が新たにオープンしました。



広大なスペースに植栽を配置し自然に溶け込むような色合いの景観に配慮した建物です。こどもたちや地域住民、子育て支援に関係するNPO等が利用でき、こどもたちを中心に多世代が集い、交流することができる環境を整えました。



▼屋内ネット遊具



▼屋内運動場



ぴあばーく妙典COCO



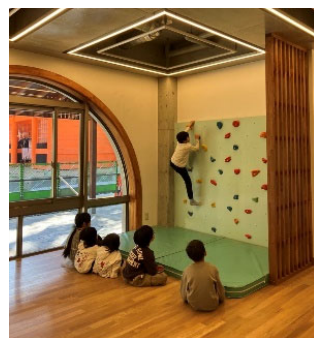
ものづくりひろば、じしゅうしつ、妙典親子つどいの広場、本もたくさんあるよ

▲開館時間：午前10時から午後8時まで

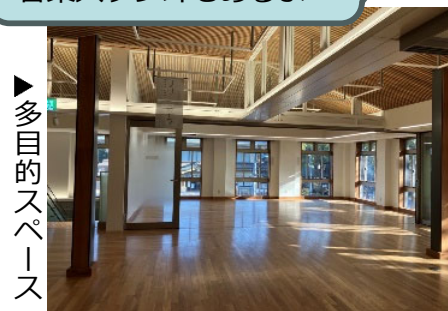
八幡市民交流館 ニコット



▼ボルダリングスペース



集会室やフリースペース、子育て支援機能、音楽スタジオもあるよ



▶多目的スペース

葛飾八幡宮参道脇で日常的なにぎわいから厳かな神域へと段階的に変化していく敷地。外観は葛飾八幡宮の景観に合う低層の切妻屋根とし、色彩は自然素材に準じた落ち着いた色合いとしています。また、中央公民館の部材を活用し、その歴史を継承しています。

中央公民館の部材を活用



▲1F受付カウンター



こんな感じ♪

▲開館時間：午前9時から午後9時まで